

カブトムシ

カブトムシのたまごは、腐葉土ふようどという、かれ葉はなどがくさつてできた、やわらかい土の中にうみつけられます。

たまごから生まれた幼虫ようちゅうは、腐葉土ふようどを食べて大きくなります。生まれたときは一センチメートルにもなりません、秋の間にどんどん食べて、十センチメートルほどにもなります。

幼虫ようちゅうは、そのまま土の中で冬をこします。そして、春のおわりごろ、さなぎになります。

夏になると、さなぎから、つのある成虫せいちゅうがでてきます。成虫せいちゅうは、夜に木のしるをすいにやってきます。

1 カブトムシのたまごは、どこにうみつけますか。

の中

2 幼虫が、腐葉土の中でくらすのはどうしてでしょう。

--	--

3 幼虫がさなぎになるのは、いつごろですか。

ア
秋のはじめ

イ 春のおわり

ウ 冬のまん中

4 成虫は、夜に何をすいにやってきましたか。

木の